



YOKASEIKEI JUNIOR HIGH SCHOOL

八鹿青溪

**貫徹・慎独・創造**

養父市立八鹿青溪中学校 校報

(令和8年1月27日) 第21号



八鹿青溪中 HP

コミスク教育目標 「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

公開授業本番！ 「主体的・対話的で深い学び」をめざして

1月20日(火)は、「リーディングDXスクール事業」(文部科学省指定)の公開授業日でした。タブレット端末の活用を通して、情報活用能力の育成や授業改善(主体的・対話的で深い学び)、校務DXをめざす本事業では、研究の成果を全国に公開することが求められており、今回が本発表でした。雪が舞う寒い一日でしたが、養父市内や但馬管内だけでなく、遠く山梨県から授業参観にご来校いただいた方もありました。

YSL(八鹿青溪新たな学び)を合言葉に、子ども達と一緒に創り上げてきた授業を参観いただき、貴重なご意見を多数お寄せいただきました。一番の喜びは、アドバイザーである平井総一郎氏に、「どの授業でも生徒が自分の考えをもち、しっかり伝え合う場面を見ることができていた」と、子ども達の学びの変容を評価していただいたことです。参加者アンケートの結果分析(AI活用による)を別紙に紹介しています。参考にしてください。

1年道德 「いつわりのバイオリン」



1年数学 「空間図形」



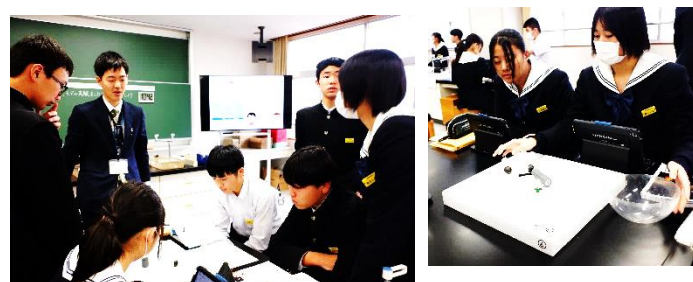
2年国語 「立場を尊重して話し合おう」



3年美術 「つなげ みんなのイマジネーション」



3年理科 「月と金星の動きと見え方」



全校生 地域と未来を守る 「防災校外生徒会」

**学びの深化をめざした 子ども達と先生の挑戦は これからも続きます！**

いざという時に「備える」 危機管理意識を育てる

本校は令和2年度に兵庫県教育委員会の「気象災害モデル校」に指定され、気象予報士の蓬萊大介氏にお話をいただいたり、阪本真由美先生（兵庫県立大学教授）にご助言いただいたりしました。それ以来、2年生を中心に実践しているのが「マイハザードマップ」作成です。自分が住んでいる地域の災害特性や避難所までのルートと時間、危険箇所、持ち出し袋や備蓄品等について調査した結果をレポートにまとめ、校外生徒会の際に発表します。そしてその情報をもとに、同じ校区のメンバーで話し合います。

今年は、1月20日（火）の公開授業当日に防災学習発表会を設定し、参観していただきました。DX講師の平井先生がまず指摘されたのが、生徒が作成した「マイハザードマップ」が、本当に「マイ」になっているのかという点でした。避難所までのルートを実際に歩いて調査したのか、同居する家族（おじいさんやおばあさん、小さい子どもやペット）と一緒に避難することも想定したのか、自分の家のどの場所に非常持ち出し袋を置いているのか、家族と連絡はどのように行うのか……これらがすべて盛り込まれているかどうか、「マイ」のポイントであるところをご指摘でした。



生徒アンケートの結果を生成AIで分析した結果からも、①「知識」と「実践（準備）」とのギャップ、②意識の継続（風化への対策）、③「一人での判断力」が今後の課題であることが明らかになりました。家庭に持ち帰った「マイ避難カード」も活用し、より実践的な学びへと発展させていきたいと考えています。

「マイハザードマップ」とは

世帯ごとに作成する
オリジナルの防災地図

主な内容

- ・災害の情報を入手する方法（インターネット、TV、ラジオ等）
- ・自分が避難するタイミング（警戒レベル・家庭での約束事）
- ・自分が避難する場所・経路（経路の写真・通行上の注意点）
- ・自分が避難する際に持ちもの・備蓄品
- ・自分が住む地域のいいところ など...

○避難が難しい高齢者がいるが警戒レベルまで避難する！

小中学校 ← 1.5km
家
→ 0.1km → 公会堂（避難所）

○公会堂は危険区域に入っていないけど、少し災害警戒区域に入っているから注意する！！

○避難は防具必須！！避難所での避難生活はどのためでもスグも必需品！

＜防災バッグの中身＞

- ・非常食・飲料水・軍手
- ・懐中電灯・マスク・タオル
- ・スマホ・充電器・防寒具
- ・現金・ティッシュ・ビニール袋 など...

＜ハザードマップ＞

＜服装＞

- ・動きやすい服（長くて長ズボン）
- ・運動靴
- 振りがく、歩き（走り）やすい靴が良い

生徒自身がハザードマップを考え、避難について真剣に考えていること、2004年の台風について、家族の体験をその時の写真を用いて伝えている先生、一人一人が真剣に災害について考えていました。私の地域では近年大きな災害がありません。しかし、授業を参観させていただき、災害教育について考えることが必要だと改めて感じました。

（参観された先生の感想）

「1.17集会」 震災学校支援チーム（EARTH）の先生に学ぶ

休み時間に突然地震が起きたという想定で行った今回の避難訓練。トイレにいた生徒も、廊下で話をしていた生徒も、落ち着いて避難行動をとることができました。※左下写真：頭を守り安全確保をする生徒たち



避難後の「1.17集会」では、八鹿小学校の柴垣先生と本校の大封先生に「災害時の備え」について教えていただきました。1人が1日に必要とする水の量や簡易トイレの話真剣な表情で聞いていました。被災地支援に赴かれた実体験から、「恐怖感や不安感をもつのは当たり前のこと。冷やかしたりせず、近くの友達に優しく声をかけてあげてほしい」と心のケアの大切さについても伝えてくださいました。

未来の教室：教育関係者が注目した授業改善のポイント

テクノロジー活用による学びの深化

共有機能で
思考が広がる



友達の考えを即座に見て、
自分の考えを深めることが
可能に。



生徒が自ら考えを
書き込み、発言

日頃の積み重ねにより、
生徒が未来を有効活用して
いる様子が見られた。



生成AIで
校務DXも推進

授業の感想まとめなどに
活用し、業務効率化の
可能性も示唆。

生徒が主役の授業づくり

「逆向き設計」で
学びのゴールを明確化



目標を共有することで、
生徒の学びが方向づけ
られる。



「覚える」から
「論じる・説明する」スキルへ

生徒が多角的な視点で考えを
膨らませ、認める授業を実現。



生徒同士で考え、
議論し、伝え合う環境

自分たちで考え、議論し合う教育
環境が目指すべき姿だと評価。

○参加者アンケートの分析（生成 AI による）

© NotebookLM

生成 AI をはじめとする最先端テクノロジーとともに生きていく子ども達に求められるのは、「自分の考えをもち、判断・行動できる力」であり、「多様な人々と関わり合う態度」であると考えます。本校がタブレット端末をツールとして活用しながら育てているのは、情報活用能力であり言語能力です。安易に答えを求める姿勢ではなく、粘り強く課題と向き合い、多様な人との協働により、自ら答えを見つけ出そうとする姿勢です。

今回の防災学習会（マイハザードマップ作成）後の振り返りを読んでみると、校区のメンバーであれこれ話し合ったことにより、学びが深まったことが読み取れました。これからも、「自分の考えをもち、自分の言葉で表現すること」を大切にしながら、実践を重ねていきたいと考えています。

2年 藤原 竣介	今回のマイハザードマップは、大雨による災害を想定して作ったが、他にもあらゆる可能性をイメージして、避難計画を立てておくことが必要だと考えた。また、今回のマイハザードマップ作りのように、災害に日ごろから備えておくことはとても大切なのだと改めて実感した。
2年 松田侑里香	初めは警戒レベル4で避難しようと思っていたけど、1・3年に質問などされてから、祖父母と犬がいるから警戒レベル3で避難しようと思いました。食料を何日分持っていくか、どのくらい持っていくのかははっきりしていないので、家族全員で決めておきたいです。
2年 藤原 佑真	授業で教えてもらったことや1・17集会を通して自分の作ったマイハザードマップにはいいところもあったけど、改善するところやもっとよく考えないといけないところがたくさんありました。もう発表は終わったけど、学んだことを通して、これからいつ起こるかわからない災害にどのように備えていけるのかを考えて生活していけたらいいなと思います。災害が起きたときは、冷静に安全に避難できるようにしたいです。